

# につせい農事にゆーす

(第457回) 日星コーポレーション株式会社

アグロ部 (054-263-2860)

賀 正

新年あけましておめでとうございます。みなさまには良き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は弊社の農薬、資材、肥料をご愛顧頂き誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。本年も変わらずのご引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

2024年は全国的な夏場の記録的猛暑や秋(9~11月)の気温の高い気象状況などの影響により、多くの農作物で収量や品質の低下が起きました。病虫害の発生では水稲や果樹でカメムシ類が、野菜類ではチョウ目害虫が多発し多くの被害を出し、防除に苦慮した一年でした。

一方2025年の干支は乙巳(きのとみ)です。「乙」は柔軟性と適応力を象徴し、巳は蛇を表し再生と変化の意味があります。乙巳の年は努力を重ね物事を安定させていく縁起の良さを表しています。

弊社では、引き続き誠実に皆様のためにより良い商品とサービスの提供に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。年頭にあたり、皆様方のご発展を心よりお祈りいたします。

敬 具

令和7年1月1日 日星コーポレーション株式会社 アグロ部 部長 小川敏弘  
部員一同

## 「1月の病虫害」

病虫害防除所の1月予報によると、だいこんではアブラムシ類が「多」、たまねぎでは腐敗病が「やや多」、イチゴで炭疽病が「多」、の情報が出ています。12月は気温が低く、降水量も少なかったために、病虫害の発生が少なく、1月も同じような状況が続きます。

今回は、みかん、茶で冬期に行う病虫害対策について掲載しました。

令和6年12月24日

気象予報 '25-01

## 東海地方3か月気象予報

名古屋地方気象台発表

### ● 月別の予報

- 1月：平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
- 2月：平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は平年並の確率が40%です。降水量は、平年より少ない確率が40%です。
- 3月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は平年より高い確率が50%です。降水量は、平年より少ない確率が40%です。

予報の 区分	気 温			降 水 量		
	低い	平年並	高い	少ない	平年並	多い
3 か 月	20	40	40	40	40	20
1 月	40	40	20	40	40	20
2 月	30	40	30	40	30	30
3 月	20	30	50	40	30	30

## 病害虫発生予察情報(1月予報)

令和6年12月24日  
静岡県病害虫防除所長

## 1 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (1月の県平均平年値)	予報の根拠
トマト	葉かび病・ すすかび病	発生量:少 (発病株率9.7%)	12月中旬発生量:少 (－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	灰色かび病	発生量:少 (発病株率3.8%)	12月中旬発生量:少(発生なし)(－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	黄化葉巻病	黄化葉巻病発生量:少 (発病株率2.2%)	12月中旬発生量 (－) コナジラミ類発生量:やや少 (－) 気象予報:気温:低い (－)
	コナジラミ類	発生量:やや少 (寄生株率11.4%)	12月中旬発生量:やや少 (－) 防除員からの報告:やや多 (＋) 気象予報:気温:低い (－)
だいこん	白さび病	発生量:少 (発病株率7.5%)	12月上旬発生量:少(発生なし)(－) 気象予報:気温:低い (＋) 降水量:少ない (－)
	モザイク病 (アブラムシ類)	モザイク病発生量:並 (発病株率2.1%) アブラムシ類発生量:多 (寄生株率6.4%)	12月上旬発生量 モザイク病:少 (－) アブラムシ類:多 (＋) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (＋)
	コナガ	発生量:並 (寄生株率0.5%)	12月上旬発生量:やや多 (＋) フェロモントラップ誘殺数:少～並(－～±) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (±)
	ナモグリバエ	発生量:少 (寄生株率15.6%)	12月上旬発生量:少(発生なし)(－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (±)
キャベツ	菌核病	発生量:少 (1月平年値なし)	12月中旬発生量:少 (－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (－)
たまねぎ	灰色腐敗病	発生量:少 (発病株率0%)	12月中旬発生量:並(発生なし)(－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	腐敗病	発生量:やや多 (発病株率1.2%)	12月中旬発生量:多 (＋) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	ネギアザミウマ	発生量:少 (寄生株率27.8%)	12月中旬発生量:少 (－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (＋)

作物名	病害虫名	予報 (1月の県平均平年値)	予報の根拠
ねぎ (白ねぎ)	さび病	発生量:少 (1月平年値なし)	12月中旬発生量:少 (－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	べと病	発生量:少 (1月平年値なし)	12月中旬発生量:少(発生なし)(－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (－)
レタス (非結球レ タスを除く)	べと病	発生量:少 (発病株率1.5%)	12月中旬発生量:少(発生なし)(－) 気象予報:気温:低い (+) 降水量:少ない (－)
	斑点細菌病	発生量:少 (発病株率2.0%)	12月中旬発生量:少(発生なし)(－) 気象予報:気温:低い (+) 降水量:少ない (－)
いちご	灰色かび病	発生量:少 (発病株率0.5%)	12月上中旬発生量:少 (－) 気象予報:気温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	うどんこ病	発生量:少 (発病株率1.1%)	12月上中旬発生量:少 (－) 気象予報:気温:低い (－)
	炭疽病	発生量(多) (発病株率1.2%)	12月上中旬発生量:多 (+) 防除員からの報告:やや多 (+) 気象予報:気温:低い (－)
	アブラムシ類	発生量:少 (寄生株率 1.6%)	12月上中旬発生量:少 (－) 防除員からの報告:やや多 (+) 気象予報:気温:低い (－)
	ハダニ類	発生量:並 (寄生株率 14.0%)	12月上中旬発生量:並 (±) ただし、一部ほ場で多 防除員からの報告:やや多～多 (+) 気象予報:気温:低い (－)
	アザミウマ類	発生量:並 (寄生株率2.5%)	12月上中旬発生量:並 (±) 防除員からの報告:やや多 (+) 気象予報:気温:低い (－)

## 表の見方について

- ・予報の発生量は平年(静岡県の過去10年間)との比較で、「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・予報の発生時期について記述がある場合、時期の予想ができる病害虫に限り、平年(静岡県の過去10年間)との比較で、「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠には、巡回調査に基づく発生状況(調査時期と発生量)、気象庁の1ヶ月予報(気温と降水量)を記入しています。その状況が多発要因の場合は(+)、少発要因の場合は(－)を示し、+-を総合的に判断して発生時期、発生量を予想しています。

## —みかん、茶の冬期病虫害防除—

果樹などの永年性作物では春からの病虫害の発生を抑えるために、冬期にも防除作業を行うことがあります。ここでは、みかんと茶の主要病虫害の冬期防除について説明します。

### ●みかん

#### ・ミカンハダニ

休眠はしないので、各発育段階のハダニが混在し、冬期でも暖かい日には活動する。3月頃から発生が増加し、5月～梅雨明け、9～10月に急増しやすい。樹上で密度が高まると風に乗って分散し、隣接するみかん園に移動する。

⇒越冬量の多い圃場では冬期～4月にマシン油乳剤を散布する。ハダニの体がマシン油で覆われるように、葉の表裏にていねいに散布する。ただし、1～2月の厳寒期の散布は落葉を助長するので控える。



ミカンハダニ

#### ・ヤノネカイガラムシ

主に成虫で越冬し、5月上中旬に第一世代の1齢幼虫が出てくる。ふ化直後の幼虫は歩行するが、まもなく定着して移動しなくなる。幼虫は2齢を経過した後、7月上旬に成虫が発生。第2世代の幼虫が7月下旬に、第3世代の幼虫が9月下旬に発生する。

⇒冬期にマシン油乳剤を散布することでカイガラムシの初期密度を抑えられる。その結果、天敵の効果が安定し、ヤノネカイガラムシの密度を低く維持することが可能となる。カイガラがマシン油で覆われるようにていねいに散布する。



ヤノネカイガラムシ

#### ・黒点病

伝染源は、樹冠内部の枯枝と切り株や園の内外に放置された剪定枝の2つ。枯枝では降雨のたびに胞子が流れ出し、主に樹冠内部の果実が発病する。切り株や剪定枝では、胞子が風で運ばれて樹冠外周部の果実が発病する。

⇒伝染源である枯枝の発生を抑制するために密植を改め、樹冠内部の日照りを良好に保つ。枯枝は適宜除去し、園外で埋める等の処分をする。切り株は肥料袋などをかぶせ、胞子の飛散を防ぐ。



黒点病

#### ・そうか病

葉、果実、枝にいぼ型やそうか（かさぶた状）型の病斑が発生する。旧葉の病斑で越冬し降雨のたびに伝染する。春葉病斑が果実の重要な伝染源である。温州みかんは本病に弱く、中晩柑では発生が少ない。



⇒春葉での発生を抑えるために、剪定時に発病葉梢を剪除するとともに、展葉初期（最も伸びた春芽が1 cm 程度の時期）薬剤散布を行う。防除薬剤として、デランフロアブル、フロンスайд SC、フルーツセイバーなど。



かいよう病

#### ・かいよう病

葉、果実、緑枝に褐色のコルク化した病斑を形成する。病原細菌が気孔や傷口から侵入・感染する。中晩柑類は本病に弱いが、温州みかんではほとんど問題とならない。

## News 2025-1-5

(かいよう病続き)

⇒春葉に発生させないために、発芽前に銅剤（Z ボルドー、フジドーL、IC ボルドー、コサイド 3000 など）を散布する。病原菌は雨を媒介して感染を拡大するので、樹冠表面を中心に散布する。マシン油との近接散布は葉害が発生する可能性があるため、2週間ほど間隔をあける。

### ●茶

#### ・カンザワハダニ

雌成虫は、11月頃から休眠に入り、多くは茶うねの裾部葉裏で越冬する。2月下旬頃から気温の上昇に伴い産卵を開始する。3月下旬から摘採面へ移動分散を行い、萌芽と同時に新芽に寄生が多くなる。春の越冬ダニ防除は寄生葉率3%を目安に防除を行う。

⇒ダニゲッターフロアブル、ダニコングフロアブル、オマイト乳剤など。いずれもハダニの全ステージに効果があるが、ダニゲッターは卵、幼若虫に効果が高く、ダニコングは残効性が長く、オマイトは速効性で低温時でも効果が安定である。産卵が始まる2月下旬から3月上旬に葉裏に薬剤が十分届くように散布する。暖冬の年は、休眠明けや産卵が早くなるので防除が遅れないように注意する。



カンザワハダニ

#### ・チャトゲコナジラミ

成虫、幼虫とも葉裏に寄生し、主に幼虫で越冬する。成虫の発生ピークが一番茶の摘採時期と重なるため、摘採作業中に成虫を吸い込みやすい。幼虫は裾葉に多く、多発するとすす病を誘発する。すす病が多発すると一番茶の収量が減少する。

⇒幼虫を対象に1月下旬～3月下旬にマシン油乳剤を散布する。薬剤散布前にすす刈りを行うと、防除効果が高まる。



チャトゲコナジラミ

#### ・クワシロカイガラムシ

雌成虫が殻の中で越冬する。5月上～中旬に殻の内側に産卵し、5月中～下旬に幼虫がふ化する。通常は殻から出てきたふ化幼虫を対象に薬剤散布を行う。寄生している枝や幹に薬液が十分かかるように1000ℓ/10aを、カイガラムシ専用の噴口を用いて散布する。

⇒コルト顆粒水和剤、アプロードエースフロアブルなどはふ化幼虫を対象に散布する。マシン油乳剤（ハーベストオイル、スプレーオイルなど）やプルートMCは越冬虫を対象に冬期（1～3月）に散布する。



クワシロカイガラムシ

#### ・赤焼病

葉の中肋や葉脈に沿って赤褐色の病斑が生じる。強い風を伴った降雨時に感染しやすく、幼木園など自然仕立て茶園では、感染がおきやすい。冬期の降霜や降雪などによる凍害の発生も、感染に関与していると言われている。また、マシン油乳剤の散布は本病の発生を助長する。品種により罹病性の差が見られ、‘つゆひかり’、‘おくひかり’は罹病性が高い。

⇒病気の初発を確認したら速やかに次の薬剤を散布し、その後定期的に防除をする。Zボルドー、フジドーLフロアブル、コサイド3000、銅剤は連続散布すると、葉に小黒点状の葉害を生じることがあるので注意する。散布間隔を20～30日以上あける。また冬期にマシン油乳剤を散布する場合は、その1週間～10日前に銅剤などの殺菌剤を散布しておくことで病助長をかなり抑えられる。



## 今月の防除(令和7年 1月)

作物	時期	対象病害虫	使用薬剤	希釈倍数	使用時期	備考
カンキツ	上～下	ヤノネカイガラムシ ミカンハダニ	ハーベストオイル	60倍	---	12～3月の冬期に散布する。ただし、樹勢の弱い園や寒害を受けやすい園は3月に散布する。
イチゴ	上～下	うどんこ病 灰色かび病 角斑細菌病 ハダニ類 アブラムシ類	プロパティーフロアブル 又はストロビーフロアブル アミスター20フロアブル コサイド3000 カネマイトフロアブル バリアード顆粒水和剤	3,000倍 3,000倍 1,500倍 1,000倍 1,000倍 2,000倍	前日-3 前日-3 前日-3 --- 前日-1 前日-3	モレスタン水和剤3000倍(前日-2)も可。  散布翌日からミツバチの導入が可。 散布翌日からミツバチの導入が可。
トマト	上～下	灰色かび病 葉かび病  コナジラミ類	アミスター20フロアブル ダコニール1000 カンタスドライフロアブル ディアナSC ベネピアOD	2,000倍 1,000倍 1,000倍 2,500倍 2,000倍	前日-4 前日-4 前日-3 前日-2 前日-3	アフエツフロアブル2000倍(前日-3)も可。ダコニール1000、カンタスドライは灰色かび病にも可。 バリアード顆粒水和剤2000倍(前日-3)ウララDF2000倍(前日-3)も可。
ナス (促成)	上～下	灰色かび病及び 菌核病 うどんこ病 黒枯病 チャノホコリダニ	ロブラール水和剤又は スミブレンド水和剤 プロパティーフロアブル ベンレート水和剤 アフーム乳剤 スターマイトフロアブル	1,000倍 1,500倍 3,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	前日-4 前日-5 前日-3 前日-3 前日-2 前日-1	ロブラール水和剤は黒枯病にも有効。
キュウリ	上～下	うどんこ病 斑点細菌病 べと病  灰色かび病  アザミウマ類	プロパティーフロアブル キノドーフロアブル ランマンフロアブル アミスター20フロアブル カンタスドライフロアブル  アルバリン顆粒水溶剤	3,000倍 1,200倍 1,000倍 1,500倍 1,000倍  2,000倍	前日-3 前日-5 前日-4 前日-4 前日-3  前日-2	モレスタン水和剤2000倍(前日-3)も可 カッパーシン水和剤1000倍(前日-5)も可。 アミスターはうどんこ病にも有効。 ロブラールくん煙剤(前日-4) 100g/400㎡処理も可。
レタス	上～下	腐敗病 灰色かび病 ナモグリバエ	カッパーシン水和剤 カンタスドライフロアブル ダントツ水溶剤	1,000倍 1,000倍 2,000倍	7日-4 7日-2 前日-2	バリダシン液剤5(前日-3)も有効。 パレード20フロアブル(前日-3)も有効。
ダイコン	上～下	白さび病  コナガ  アブラムシ類	ランマンフロアブル又は ライメイフロアブル プレオフロアブル又は アフーム乳剤 ダントツ水溶剤	2,000倍 2,000倍 1,000倍 1,000倍 2,000倍	3日-3 7日-4 14日-2 7日-3 7日-2	アミスター20フロアブル(14日-3)も有効
タマネギ	上～下	白色疫病 腐敗病 ネギアザミウマ	ホライズンドライフロアブル バリダシン液剤5 アドマイヤー顆粒水和剤	2,500倍 500倍 5,000倍	3日-3 3日-5 14日-2	